

(1) 中国の東北一帯をいう。
当時この地方を舞台に日露戦
争が行われていた。

(2) 当時鷗外は第二軍医
部長として満州に出征して
いた。

遙に此書を満州(1)なる森鷗外(2)氏に獻ず

三さんのパッチ適用してみた

序

(5) Provence. フランス南東部の地中海に面した一帯の地方。パリを中心とするフランス語とは異なる、いわゆるプロヴァンス語が行われている。

(6) バルナナシヤシ(Eryn Parastjensi)の譯語。スラヴ紀九世紀中葉に浪漫派に對する反動として起つた詩派。サンボリスト(Symbolist)の譯語。ソポリススル世(Symbolism)の譯語。フランス。九世紀後半に起つた詩派。Symbolの譯語。ギリ

(8) 語奥深く美しいスチヤイリ源(9)もSymbolの譯語。ギリシが語のシは變ボヤが語源でらも訓割符の意味であつたのが記号。符牒の意味にほり。さらに抽象的な事物を示すための形象または心象の意味。如なのだぞ。非字架が微さる。教のう鳩が平和のお白百合が純潔のの。それ微れ象徴である。出いらがどきである。この意

卷中收むる所の詩五十七章、詩家二十九人、伊太利亞に三人、英吉利に四人、獨逸に七人、プロヴンス(5)に一人、而して佛蘭西には十四人の多きに達し、曩の高踏派(6)と今の象徴派(7)とに屬する者其大部を占む。高踏派の莊麗體を譯すに當りて、多く所謂七五調を基としたる詩形を用ゐ、象徴派の幽婉體(8)を翻するに多少の變格を敢てしたるは、其各の原調に適合せしめむが爲なり。

詩に象徴(9)を用ゐること、必らずしも近代の創意に非らず、これ或は山嶽と共に舊るきものならむ。然れども之を作詩の中心とし本義として故らに標榜する所あるは、蓋し二十年來の佛蘭西新詩を以て嚆矢とす。近代の佛詩は高踏派の名篇に於て發展の極に達し、彫心鏤骨の技巧實に燦爛の美を恣にす、今茲に一轉機を生ぜずむばあらざるなり。マラルメ、ヱルレエヌの名家之に觀る所ありて、清新の機運を促成し、終に象徴を唱へ、自由詩形を説けり。譯者は今の日本詩壇に對て、専ら之に則れと云ふ者にあらず、素性の然らしむる所か、譯者の同情は寧ろ高踏派の上に在り、はたまたダンヌンチオ、オオパネルの詩に注げり。然れども又徒ら